

深川由起子

経済分野

これまでの研究

(1) **東アジア FTA の制度比較** : 東アジアでは多様な FTA が乱立する状況に入っている。地域的まとまりさえ、いわゆる ASEAN+3 (日中韓) なのか、ASEAN+6 (CEPEA) なのか、はたまた、アジア太平洋 FTA (FTAAP) なのか分からないまま、進んでいるため、FTA はそれぞれの経済事情を反映して多様化が進み、いずれは調整コストが発生する可能性も指摘される。既に締結もしくは合意された FTA を中心にカバー範囲や自由化水準を比較すると共に、最も多様化のコストが大きいと懸念される原産地証明について定点観測を行っている (表 1～2 など)。また、原産地規制をめぐるヒアリングやコンサルティングを通じ、政府規制改革委員会報告書作成に参加した。

(2) **日韓 FTA の再交渉に関わる諸問題** : ASEAN+3 がほぼ交渉を終えた現在、東アジア経済統合の焦点は日中韓交渉即ち、日韓 FTA の再交渉・妥結と中韓の交渉入りに移った。日韓にとって FTA 交渉の最大の政治的難関は農水産物の取り扱いだが、産業の現状や、保護圧力は同じではない。韓国が譲歩した米韓 FTA における農水産物交渉を分析することで韓国にとっての政治的敏感性を明らかにし (表 3)、日本との比較を行った。

また、日韓は共にその産業が既にグローバル化しており、バイの交渉も東アジア全体の FTA 枠組みからの影響を蒙る。その好例として、また(1)の観点からも、日 ASEAN、韓国 ASEAN の FTA 比較には意味があり、実は韓国 ASEAN は日本 ASEAN、中国 ASEAN の中間的な制度・性格を持つ FTA であること、また、特に韓国の例外品目は韓国 ASEAN 間の競争問題というより、ASEAN に立地する日系企業と韓国の競争問題となっていることを分析し、(表 4)、水平分業化の深化に注目した関税交渉を提言した。

(3) **日韓中 FTA に向けた機能的協力** : (2) で見たように、FTA の中核にある関税交渉が政治的困難さを伴うのであれば、反対者の少ない機能的協力を FTA に向けて積み上げる迂回主義の方が「市場主導型」統合を促進するのではないか。この問題意識に鑑み、日韓中の物流研究会（経済産業省）を通じて集中的ヒアリングを行い、日韓、日中それぞれの物流改善プログラムについて報告書を作成した。実際の貿易関係者の間では日韓中間にまださまざまな物流改善余地があり、全体のまとめとして、原産地証明や検疫を含めた「シームレス物流」の重要性を報告した。今後は一般均衡モデルと物流を組み合わせデータが作成されるのを機に、日韓中の最適シームレス物流を提示できるよう、シミュレーションを加える予定である。

(4) **日韓中 FTA に向けた機能的協力(2)** : (3) で見た物流はハードのみならず、決済など金融の安定性を必要とする産業でもある。通貨危機直後は域内の金融協力気運があったが、債券市場などの育成は進まず、外貨が積み上がったことで気運も損なわれつつある。ハードの物流を補完する金融・サービス機能の強化を論じるため、まずは域内の資金フローの変化をサーベイして香港の金融機能の変化を確認し、次いで中国本土へのサービス機能強化に着目した調査を行った。中国の物流サービスが香港・中国間の FTA (CEPA) の投資条項によって相当程度カバーされていることが明らかとなった。

今後の研究 :

- (1) 東アジア FTA の進展と物流、機能的協力の相互作用に関する分析
- (2) 東アジア FTA における Behind-the-border-issues に関する調査と分析
- (3) 日韓、中韓 FTA の枠組み形成に関する研究